

群 教 セ	E03 - 03
	平 17.227集

# 職業観を芽生えさせる指導の工夫

## — 気づきを取り入れた職場体験学習の実施を通して —

特別研修員 後閑 広之 (大泉町立北中学校)

### 《研究の概要》

本研究は、従来の職場体験学習に、体験の「気づき」を重視した指導の工夫を取り入れることで、「働く」ということについての理解を深め、将来成長していくであろう職業観を芽生えさせることが目的である。気づくための準備としての「職業を見る視点学習」と、「体験学習前の予想」をもとに職場体験をおこない、「気づいた」事柄から「職業」を見つめ直すことで、職業観が芽生えることを実践を通して明らかにしようとしたものである。

**キーワード** 【進路指導 職場体験学習 職業観 気づき】

## I 主題設定の理由

本校2年生の実態調査によると、将来の職業について具体的な希望を持っている生徒は少なく、将来の夢を持っていても、その内容が漠然としていたり、特に理由がないといった消極的なものが多かった。また、職種に対する関心や理解も十分とはいえず、「仕事」は大人がするもので今の自分には関係がないといった無関心な意見も聞かれた。この時期多くの学校では職場体験学習を行い、進路指導の充実や職業観の育成を図っているが、知識だけでなく体験を通して職業について考えることは、高校選択を1年後に控えた2年生にとって大変意義深いと考える。

本校でも職場体験学習を実施して10年目になる。地域の協力企業も年々増え体験場所の確保も順調に伸びている。また、今までの取り組みの蓄積もあり、指導マニュアルや活動マニュアルが確立しているなど、毎年スムーズに取り組むことができている。

しかし、職場体験学習の目的や意義に関わる学習活動が希薄化し、行事としての一面に流されてしまうなどマニュアル化の弊害もでてきている。その結果、生徒にこの体験活動で何を身に付けさせたいのかといった本来の目的を見失いつつあるように思える。

そこで、職場体験学習の意義を再確認してみると、第1の目的は「職業観・勤労観」の育成であると考えている。もちろん、多くのねらいや目的が総合的に存在する中で、人間関係能力の育成やコミュニケーションスキルの習得、役割把握や意思決

定力などの成果が期待できるが、ただの「体験学習」ではなく、「職場体験学習」であることを踏まえれば、「職業観・勤労観」の育成は大変重要な目的だと考える。

しかし、近年の様子を見ると、「思い出」「感動」「楽しかった」「つらかった」で終わってしまっている。そこで、この現状を見直し、体験を最大限生かす学習過程を組むことが必要であると考えた。

本研究では職業をより多くの角度から見つめさせるために、まず職業を捉える視点を学習し、気づくポイントの基盤作りとする。次に体験前の予想を立てることで、気づくための準備をおこない、最後に、気づきから何を感じ考えたかをまとめていく活動をおこなう。これらの活動を通して、職業観を芽生えさせることができると考え本主題を設定した。

## II 研究のねらい

職場体験学習の指導において、体験前の予想と体験後の感想から生徒に気づきを得させる学習過程を組むことにより、生徒の職業についての見方を深め、生徒に職業観を芽生えさせることができるということを実践を通して明らかにする。

## III 研究の見通し

1 職場体験学習の事前学習において、職業を見つめる視点を示し「視点カード」にまとめることによって考えを整理すれば、職業に対する自分の価値観を確認させることができるであろう。

2 職場体験学習の事前学習において、実際に体験する職業や仕事内容について「知ってるつもりカード」にまとめ、気づくポイントを設定すれば、様々な視点から体験に対する予想をたてることができるであろう。

3 職場体験学習において、毎日の気づきを体験日誌にし、し、「気づきカード」まとめることで、職業の実際は見かけと違うものがあることや仕事の厳しさややりがい等、職業の現実感を感じることができるであろう。

4 職場体験学習の事後学習において、気づきを発表し合い自分の考えをまとめることで、職業に対する見方を深め、職業観の芽生えを感じることができるであろう。

#### IV 研究の内容

##### 1 基本的な考え

###### (1) 「職業観の芽生えた生徒」について

将来の職業選択に向けて様々な視点から職業を捉えようとしたり、職業に対する自分の適性を見極めようと考え始めたりする生徒のことである。この時期の生徒はまだ、職業観といえるほどのものはもっていない。初めて職業について深く関わる職場体験学習は、今後成長していくであろう職業観の第一歩であり、職業を考えるきっかけになるものである。

###### (2) 本研究が目指す「気づき」とは、

職業に対する理解を正確にしようとすることは困難である。大人でさえも、職業についての認識は的確でないことが多い。例えば、教員は休みが多いとか、清掃作業は汚いなどといったイメージで判断することや、職業のある一面だけをクローズアップし、それがすべてと思いきわすることもある。

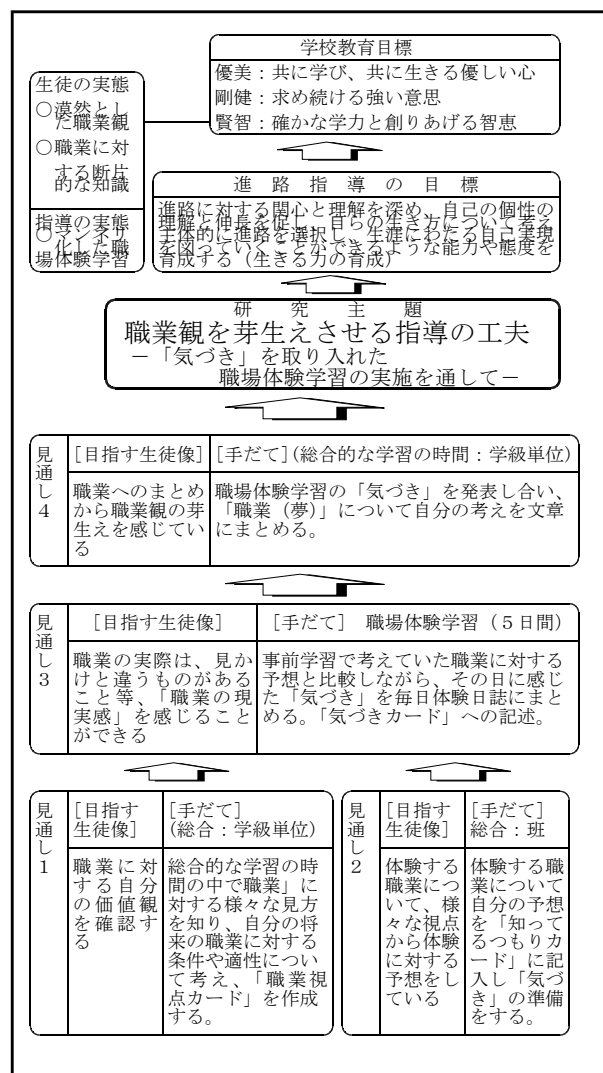
本研究ではわずか5日間の体験学習ながら、そういった職業に対するイメージを揺さぶるものとして「気づき」を大切にしたいと考えている。

「気づく」や「ギャップ」という言葉から、マイナス面を感じるかもしれない。つまり、「もっとこうだと思ったのに、残念だ」「がっかりした」などである。それも1つの気づきである。しかし、「思っていたとおりが違った」や「この仕事の良さがわかった」も気づきである。

###### (3) 「気づき」と職業観の関係について

将来、生徒たちは職業を選択する場面が訪れる。高校卒業や大学卒業の時である。就職活動をおこない職業選択を行うが、そのときの選択の幅はもちろん「夢や希望」が動機になる。しかし、単なる憧れや部分的な職業理解によって理想とは違った現実を余儀なくされるといった事例も良く耳にする。今回の「気づき」は予想していたことを確認する機会であり、職業の現実性を見極める第一歩になると考える。

###### (4) 全体構想図



##### 2 実践の概要及び結果と考察

考察については学年の生徒全体のカードへの書き込みとクラスの生徒の発言等の観察、及び抽出生徒A子のカードへの書き込みを中心におこなった。

A子は、事前のアンケートで「将来の夢」は「わからない」など、職業に対する意識は高いとはい

えない生徒である。

(1) 職場体験学習の事前学習において、職業を見つめる視点を示し、「視点カード」にまとめることによって、職業に対する自分の価値観を確認することができたか。(見通し1)

#### ア 実践の概要

総合的な学習の時間において、職業を見る視点を示し、自分にあった職業を「視点カード(資料1)」にまとめる活動を行った。職業を見る視点は「①ライフスタイル」「②適性」「③環境」「④特性」の4つを提示した。

それぞれの視点毎に選択肢を用意し、自分に合っているものは何かを考え、理由を記入させる。例えば、適性では「ア、人を相手にする」「ウ、物を扱う」等々の選択肢を用意する。職業視点カードに自分にあった選択肢を選び、その理由を書く。

#### イ 結果と考察

「ライフスタイル」の視点では、「収入が多い」「自分の能力を出せる」「勤務時間が決まっている」の項目を選んだ生徒が多かった。その理由も「収入が多いと豊かな生活が得られる」「何よりも自分に合っていれば仕事が楽しいはず」「時間が決まっていれば計画的にやりたいことができる」など、自分の考え方を表したものが多かった。残りの3つの視点に対してもそれぞれ自分の考えを理由に挙げてあり、記号を選ない、もしくは自分の考えを記述できなかった生徒はほとんどいなかった。

A子のカードを見てみると、「①自分の個性や能力を生かせる職業、②自然・生物を相手にする職業、③世界を駆けめぐる職業、④素質や才能が必要な職業」を選んでいった。理由としては、①個性や能力は自分にしかないから自分に自信を持って働ける気がする。②動物とふれあうのが好きだから③1つの場所で働くより、忙しくても世界の文化を見ながら仕事がしたい。④個性や能力は生まれ持ったものなので、才能があればやっていけそう」と記述してあった。

自分にあった職業を漠然と考えさせるのではなく、多くの選択肢の中から選ばせることで自分の価値観をより明確に感じ、他の項目を選ばなかった理由からも自分の価値観を文章表現できたのではないかと考えた。

以上のように、職業を見つめる視点を設定し、「視点カード」にまとめることは、自分の考えを

### 資料1 職業視点カード

**自分に合っている職業はこれだ！！**

①自分の「ライフスタイル」にあっている職業は次のどれですか？

ア、収入が多くなる職業  
イ、自分の個性や能力を生かせる職業  
ウ、思いつく職業  
エ、豊かな生活が得られる職業  
オ、自分の個性や能力を十分に発揮できる職業  
カ、平凡な職業  
キ、個人に使われない職業  
ク、習得が簡単な職業  
ケ、習得が難しい職業

希望  理由

②自分の「適性」にあっている職業は次のどれですか？

ア、人を相手にする  
イ、自然・生物を相手にする  
ウ、物を扱う  
エ、情報・資格を相手にする

希望  理由

③あなたが働きたい「環境」の職業は次のどれですか？

ア、住み慣れた町で働く  
イ、都市で働くのが一般的  
ウ、各地を移動する  
エ、世界を駆けめぐる

希望  理由

④あなたが働きたい職業の「特性」は次のどれですか？

ア、資格や免許が必要  
イ、経験が必要  
ウ、高度な知識や判断力が必要  
エ、素質や才能が必要

希望  理由

【体験事業所番号】

クラス	番号	氏名
組	番	

整理でき、職業に対する自分の価値観を確認することにおいて有効であったと考える。

(2) 職場体験学習の事前学習において、実際に体験する職業や仕事内容について「知っているつもりカード」にまとめることで、様々な視点から体験に対する予想をすることができたか。(見通し2)

#### ア 実践の概要

総合的な学習の時間において、職場体験学習で体験する職業について体験前の今現在、「きっと、こうだろう」「こうに違いない」という予想を「知ってるつもりカード(資料2)」に書く。カードの内容は「見通し1」で学習した4つの視点に加えて、体験学習5日間で感じるであろうと思われる項目を加えた。さらに、予想の仕方を「この会社の正社員だったら」と「今回の体験学習に限って」の2通り設定し、限られた体験学習の内容以外の部分も予想させる工夫をした。

#### イ 結果と考察

生徒は今回の職場体験学習の目的が「気づく」ことであるとの説明を聞いたため、どの項目に対してもほとんどの生徒が予想を書き込むことができた。しかし、4つの視点についての予想は様々で、同じ職場に行く生徒でもその職種を見る見方にはずいぶんと違いがあった。例えば、公務員については、「収入が多く豊かな生活ができる職業

である」と感じている生徒もいれば、「働く時間が決まっていて生活を楽しめる」と感じている生徒もいる。家庭環境や情報の取り方によって様々な先入観があることが伺えた。また、職場体験で実際に行うと思う仕事内容については、保育園では子供の世話、スーパーでは品物を並べるといった自分の経験や見た目判断している生徒が多く、1つの職業の仕事内容は多くても3つ程度で未知の部分が多いことを物語っていた。

A子はK小学校で体験することになったが、「やりがい勉強を教えるところ、大変なところはわからないことを教えるところ、仕事内容については、勉強を教える、授業の準備、行事を考える、お客さんとの対応」と記述していた。教師の仕事は勉強を教えることであるというところが伺える。

以上のように、職種に対して一面的な捉えではあるが、知っていることを書き記したことは、「気づき」の準備として大変意義があったと思う。

資料2 知ってるつもりカード

**知ってるつもりカード**

組 番

これから、体験場所の職業や仕事内容についてあなたが今、考えていることを書いてください。それぞれの項目について予想をするわけでは  
 ません。あなたが「この会社の正社員だったら・・・どう生きる？」

この職業の「視点」での分類はどれだと思いますか？（視点カードを見ること）			
山梨イラススタイル	介護性	介護職	公務員
[理由]	[理由]	[理由]	[理由]

2 この職業の「やりがい」は何だと思いますか？（そう考える理由も書く）

3 この職業で「大変なところ」は何だと思いますか？（その理由も書く）

4 この職業は、時期や曜日、時間帯によって忙しさに変化がありますか？

5 この職業で、収入や休暇の条件はどうかと思いますか。

6 この職業の内容を細かく分けるにどんな種類の作業があるか考えてみよう。

この職業をするために関わらなくてはならない別の職種はなんだと思いますか。

予想の仕方（その日）  
 全員の見聞の**職場体験学習**について予想しよう！  
 あなたが体験する仕事内容はなんだと思いますか。

7 1日の体験のタイムテーブルを予想して書いてみよう。

8 1日の仕事が終わってあなたが感じるこの仕事の「よさ」は何だと思いますか。

9 1日の仕事の後、あなたが感じるこの仕事の「大変なところ」は何ですか。

(3) 職業の実際は見かけと違うものがあることや仕事の厳しさややりがい等「職業の現実感」を感じることができたか。

ア 実践の概要

職場体験学習において、毎日の活動を振り返り体験日誌に「その日の気づき」を記入しておく。その際、知ってるつもりカードと見比べることで「気づくポイント」を意識した記述をおこなう。

体験終了後の総合的な学習の時間において、それらの気づきを「気づきカード」にまとめる。「気づきカード」には、「こう予想していたのに実際はこうだった」という欄を設け気づきをより明確に感じられるようにする。

イ 結果と考察

毎日の体験での気づきをまとめた「気づきカード」には、ほとんどの生徒が5つ以上の気づきを書き、中には欄外にはみ出るほど書いた生徒もいた。記述内容については、職業の現実感ではあるが、職業選択に直接関係のないものも半数くらいはあった。例えば「飲食店での手洗いには毎回消毒液を使っていた」とか、「ウエイトレスで水を運ぶのは意外とバランスをとるのが難しい」などである。

しかし、残りの半数は「視点カード」や「知ってるつもりカード」を意識したものであった。ある児童館に行った生徒は「仕事は子供の来る午後が中心で午前中はゆったりできると考えていたのに、実際はむしろ午前中の方が庭に手入れや掃除、草むしりといった仕事が多くて体力的にきつかった」と記述している。また、回転寿司店で体験した生徒は「皿洗いが中心である」という予想に対し「接客が中心であり、その接客も決して簡単ではなく多くの客に絶えず笑顔で接し対応するのはとても大変だ。社交性が必要だと思った」という気づきを書いていた。その日に体験した内容をその日のうちに記入することで気づいたことを確実に記録できたのだと考える。また、その際に気づきポイントを見ることで的はずれにならない気づきが多く残せたのではないかと考える。

A子は全部で8つの気づきを書いていた。町探検で校外活動に出かけたときの気づきは、「車に気をつけさせる」と予想していたのに対し、「安全はもちろん傘を振り回さないように絶えず注意したり、お店の見学では子供の動きをずっと見ていないと何をやり出すか心配で大変だった」と記述している。また、子供がけんかをしたときの気づきは、「言えば治まると思っていたのに1人ではどうにもならず助けを求めたりしてちょっと怖かった。思い切っていかなければいけないと思った」と記述していた。

以上のように、気づきカードへの記述は大変詳しく数多くの気づきを出すことができた。このように、半数もの「気づき」が職業観につながるものになったことは、「見通し1」「見通し2」の

積み上げによって生徒の中にどのようなことを見て何を感じればよいかという意識づけができたためであるとする。また、予想と現実を対比させる形式だったことも有効であったと思う。

(4) 体験前に比べて、職業観の芽生えを感じる事ができたか。

#### ア 実践の概要

総合的な学習の時間において、「気づき」を発表し合い多くの「気づき」を捉えさせる。自分だけでは有効な気づきをもてなかった生徒には友達の感じた気づきを疑似体験としてもたせることができる考えた。その後、気づいたことから職業について考え方の変化を「職場体験まとめカード(資料3)」にまとめる。この職場体験まとめカードには、「気づいたこと」から「何を考えたか」を記述する。職業の選び方や自分の適性についての考えをまとめ、将来の夢や希望が体験前と体験後で変化したかを理由と共に記述し、この単元のまとめとした。

#### イ 結果と考察

「気づき」から感じたことについて、職業の選び方と自分の特性の2つについて記述させたところ、職業観が芽生えた生徒は全体の二、三割であった。例えば、職業の選び方については、「今回のようにこんなはずじゃなかったってことがないように今回以上の角度から調べて、本当に自分に合っているか確認したい」や、「免許や資格は大事だけれど、一番大事なものは経験だと思った」、「機械が好きなので工場に行ってみたが、単純作業の連続でつまらなかった。機械を作り出すような仕事に絞っていきたい」「楽しそうだからで選ぶのではなく、続けられそうかどうかで選んだ方がよいと思う」などの記述が見られた。

また、自分の特性については、「簡単な仕事がいいと思っていたが、すぐに飽きてしまうようなものには向いていないとわかった」や「得意の水泳のインストラクターを目指していたが、年上の人との接し方が苦手だと気づき、子供相手の仕事に向いていると感じた」など、希望の場所で体験できなかったにかかわらず、与えられた職場での経験から自分を見つめた生徒もいた。

しかし、残りの7割程の生徒の記述にははっきりとした職業観の芽生えを感じることはできなかった。「気づきカード」には良い気づきがあっても「まとめカード」に記述できない生徒も多かった。原因として職場体験まとめカードの質問が

### 資料3 職場体験まとめカード

**職場体験まとめカード**

①職場体験学習で感じた「気づき」から あなたは何を考えましたか?  
○職業の選び方について参考になったこと

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

○自分の適性について改めて感じたこと

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

○その他

\_\_\_\_\_

②あなたの夢(希望する職業)について聞きます。  
職場体験学習の前と後(今)とで分けて答えてください。

体験前(2年生4月頃) → 職場体験 → 体験後(現在)

③②の質問で、「体験前」と「体験後」を比べてみるとあなたは次のうちどれですか?当てはまる記号を下記に書き、そのわけを考えてみてください。

体験前の夢希望	体験後の夢希望	下の理由に書くこと
ア 決まっていた	前と変わらない	どうして変わらなかったのですか?
イ 決まっていた	前と変わった	どうして変わったのですか?
ウ 決まっていた	わからなくなった	どうしてわからなくなったのですか?
エ 決まっていなかった	決まってきた	どうして決まってきたのですか?
オ 決まっていなかった	まだ決まっていない	どうして決まらなかったのですか?

【当てはまる記号】 [理由]・職場体験学習での「気づき」(自分の・友達のを中心に書いてください)

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

④もう一度あなたの夢(職業)・希望について聞きます。決まっていまい人はイメージや条件を書いてください

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

⑤最後に、①を希望する理由を書いてください。あなたの人生観や適性や休日や給料など、分まで学習した方から進んだ理由を聞いてみます。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

曖昧であったり、質問の意図が伝わらなかったことが考えられる。

体験前と体験後とで自分の夢に変化の有無を調べたところ以下の表1のようになった。夢の変容と職業観の芽生えの関連は一概にはいえない。職業観が芽生えた生徒が必ずしも夢の変容を起こすとは限らないが、夢が変化した生徒の多くは今回の実践での職業観の芽生えと深く関わりがあると考えられる。

表1 体験前と体験後の夢の変容

	体験前の夢	体験後の夢	%
ア	決まっていた	前と変わらない	47
イ	決まっていた	前と変わった	11
ウ	決まっていた	わからなくなった	10
エ	決まっていなかった	決まってきた	15
オ	決まっていなかった	まだ決まっていない	17

体験前と体験後とで自分の夢に変化があったかを聞いたところ64%(ア+オ)の生徒に変化はなかったが、36%(イ+ウ+エ)の生徒は変化があったと答えた。この結果を見るとおよそ三分の一の生徒は、今回の職場体験学習により将来の夢について何らかの変容をしたことになる。このことと職業観の芽生えとの関連を調べてみると、



まりをもっている、今回の職場体験学習は近い将来の職業選択にとって有効に働くに違いないと思われる。

また、今回の実践の様子を見て、職員からは「今までの職場体験とは違い、子どもたちの目的意識がはっきりしていた」という感想や「ワークシートへの書き込みの記述が充実していた」などの意見が多く聞かれた。

## 2 今後の課題

研究のまとめで述べたように、本研究の目的達成率が三分の一程度に止まった点に関して、以下の3つの点が課題として考えられる。

### ○目的意識のもたせ方について

職場体験学習で何を体験してくればよいのかを事前指導の中で明確につかませることが大切である。そのためには、十分な時間の確保と具体的な例をあらかじめ示しておくことが必要である。

### ○体験場所について

将来の夢に近い体験場所の確保が望ましいが、すべての生徒に提供することは困難である。その際、生徒に第二、第三の希望をしっかりとらせておくことが目的意識を高めるために有効であると考えられる。

### ○振り返らせ方について

まとめの段階において、体験から気づいたことを職業観の芽生えにつなげるために、教師からの質問を具体的な内容に特化する必要がある。生徒が感じている気づきの中から、引き出したいものを焦点化させることで意識化を図ることができるからである。

上記の3点を改善することにより、半数以上の生徒に目的を達成させることができると考える。

### <参考文献>

- ・鹿嶋 研之助 著 『進路指導を生かす総合的な学習』 実業之日本社(2000)
- ・仙崎 武 著 『学校進路指導の研究～その理論と方法』 創栄印刷(1996)

(担当指導主事 中西 信之)